

シビルたんぱ

丹波市市民活動支援センター情報誌

創刊号
2026年6月

※「シビル (civil)」とは英語で「市民の」という意味です



「おもしろそう」
「もっと知りたい」という
自分の好奇心によりそって
ともに歩いていきましょう
お気軽にお立ち寄りください！

2p 市長 対談

3p 丹波市自治会長会 会長 対談

4p コラム「だれもが主役になれる場所として」
805 たんぱに出演しました

5p 葛野報徳自治振興会の紹介

6p 地域活動グループ紹介「丹波赤鬼会」

7p クイズ「ここはどこでしょう？」

8p 市民カレッジ案内

丹波市 市民プラザ

tel.0795-82-8682

丹波市市民活動支援センター

tel.0795-82-8683

丹波市氷上町本郷300番地 丹波ゆめタウン2F

開館時間 ● 10:00 ~ 18:00 休館日 ● 毎週月曜日・年末年始

市民プラザは COMMUNITY EDUE (一般社団法人 コミュニティエデュ) が指定管理者として運営しています

地域を元気にする仕掛けを

林時彦丹波市長と西尾征樹代表理事が対談し、市民プラザの活動について意見交換しました。

西尾 市民プラザに中学生が良く来てくれます。プラザを子どもたちを含めての市民の居場所にできれば良いと思います。市民プラザには、どのような雰囲気が必要でしょうか。丹波市の良さも教えてください。

林市長 敷居を低くしていろんな年齢層の人が集える場にしてほしいですね。コロナ禍で、地域の間関係が希薄になりました。自治会の総会も書面決議になるなどした影響がコロナ後も影を落としています。祭りも縮小されるなどして、若い人が地域の行事に参画する機会が減ってきています。地域の祭りをもう一度見直し、子ども中心の手作りの祭りが出来ないものだろうかと考えます。



林市長（右）となごやかに対談する西尾代表理事

という良き気風があります。私も春にはタケノコをいただきました。「玄関

敷居を低くしみんなが集まる 良き気風で深まるつながり

にたけのごゴロゴロ山笑う」という句を作りました（笑）。いただくのは大体近所の人からなので、見当がつきます。出会った時にお礼を言ったりして、人間関係が深まっていくのですね。

若い世代と高齢世代の交流の場として子ども食堂の展開も良い試みです。地元で収穫された野菜も使えます。もぎ取り体験も面白いでしょう。丹波市は県下自治体のなかでも農地面積が4番目に大きい。農地を活用した農業体験観光が広まればと思います。

西尾 市長さんは良く山に登っておられるとお聞きします。市長 私は戦国の山城、国指定史跡の黒井城に仲間と頻繁に登っています。秋から冬にかけての山頂からの雲海の眺めは素晴らしい。この丹波霧がおいしい農産物を育みます。地元の人たちが整備をして、登りやすく、見晴らしが良くなるようにされています。10年ほど前に100人で黒井城に登ろうというイベントもありました。今は市内の山をかけめぐるとレイルランニングも定着しています。

西尾 地域を元気にする仕掛けが大事ですね。林市長 地域を活性化するために地域に寄り添い、つながりを求めていくような場を市民プラザには期待しています。トレイルランニングのような新しい試みも尊重しつつ、昔から続く取り組みなどに対し、市民プラザがどのようににかかわっていくかがポイント。市民の声を引き出せるような事業、支援できる動きを期待しています。「市民プラザに行けば面白いことがあるよ」といった市民の声がでるような仕掛けも考えてほしいですね。

■西尾征樹 一般社団法人コミュニティエデュケーター代表理事、大阪樟蔭女子大学准教授。大阪府岸和田市役所に入庁し、社会教育主事資格取得。岸和田市浪切ホールの立ち上げに関与し、生涯学習課長及び中央・市立公民館長を経て、退職。

プラザを情報交換の場に

坂谷高義丹波市自治会会長と萩原雅也理事が対談し、地域の課題について意見交換しました。

萩原 丹波市に初めて来たとき、柏原の町を歩いていて、道を聞いたところ近くにいた人が親切に教えてくださった。

人が優しいという印象を持ちました。坂谷会長 おっしゃる通りに穏やかな地域性です。市外から来た人から「ほっとする」という声をお聞きます。食べ物もおいしい。私の住む市島地域には今も造り酒屋が4軒あります。水や米が

良い証拠だと思えます。私は酒の小売業をしています。50年ほど前、大阪の千里ニュータウンができたころ、地元の酒を持つて販売に行きましたが、飛ぶように売れたことが思い出されます。それ以来、「有名な灘に負けない人気がある」と自信を持ちました。

萩原 自治会や地域の課題を教えてください。地域を元気にするイベントも紹介ください。

坂谷 人口減、少子化が一番大きいと思います。青垣と市島地域で小学校統合、山南地域では中学校統合がありました。一方では、移住の人も増えていますが、自治会に加入しない世帯もあり、加入を勧める働きかけをしています。また、丹波市社会福祉協議会との連携を図り、地域の福祉課題について意見交換し、共通理解を深めています。

萩原 話は変わりますが、長年、女子高校野球に関わってこられたと聞きました。素晴らしい試みですね。

坂谷 イベントでは、旧市島町時代に「市島未来塾」であぜ道交流という今

でいう国際交流の取り組みを行いました。続いて私が体育協会長の時に、地域を盛り上げるために全国高等学校女子硬式野球選抜大会が開催されました。夏の選手権大会は、5チームから出発し、昨年は67チーム、今年は70チームの出場になりました。市島や春日、淡路で準決勝まで行い、数年前から決勝は甲子園で実施するようになりました。甲子園は男子球児の夢の舞台、女子野球の選手のあこがれも強く、高野連会長と何回も出会うことが望み、実現にこぎつけました。決勝は甲子園でやるということになったことが、出場チームが増えた要因でもあると思います。

女子野球の話題が出ましたが、私の地元、吉見地区は自治会の女性役員の登用を進めています。市内には約300自治会がありますが、女性の参画が広がっていくことを願っています。

萩原 市民プラザへの期待は？

坂谷 市民プラザには、自治振興会や自治協議会、自治会役員らもどしどし足を運んで欲しい。振興会や自治協議会のPRコーナーもあり、情報交換の場になったらという思いです。まずは、市民プラザの存在を知ってもらうことが大事だと考えています。



坂谷会長（左）とざっくばらんに話をする萩原理事

やさしく穏やかなまち 女性の参画広がりを

■萩原雅也 一般社団法人コミュニティエデュケーター理事、大阪樟蔭女子大学名誉教授、元大阪府社会教育委員会委員長。大阪府立高等学校教諭を経て、教育委員会の社会教育主事として公民館、家庭教育支援等を担当。研究分野は文化・学習と地域づくり、創造都市論。

だれもが主役になれる場所として

「シビル (Civill)」とは、英語で「市民の」という意味です。

「シビルたんば」という名前には、丹波市市民プラザが「市民のみなさんの、市民のみなさんによる、市民のみなさんのための」活動の場であってほしい、という願いが込められています。

ちなみに、ここという「市民」には、大人だけでなく、子どもや若い人たちもみんな含まれています。

「教育」と聞くと、どこか「決められたこととを、決められた通りに教わる」という、少し窮屈なイメージがありませんか？でも、本来の「学び」とはもっと自由なものです。「おもしろそう！」「もつと知りたい！」という自分の好奇心からスタートし、自ら進んで取り組むことで、自分自身を成長させてパワーアップしていく。それこそが本当の学びです。

学ぶ楽しさや喜びを感じながら、自分らしい豊かな人生を作っていくことが、何より大切なはずですよ。

誰かに押しつけられるのではなく、一人ひとりの「やってみたい」という気持ちや自主性・当事者性を大切にすることが、今あらためて求められているのではないのでしょうか。

丹波市市民プラザに集まる、さまざまな世代のみなさんにとって、ここが大切な居場所となり、新しい学びや素敵な出会いが生まれることを、心から願っています。



シビルたんばの名付け親であり、人権教育・社会教育の専門家である平沢安政大阪大学名誉教授からメッセージを寄せて頂きました。

大阪大学名誉教授 平沢 安政

丹波市 市民プラザへのアクセス

丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2F

2F



ここから入れます!!



FM80.5MHz

805たんば に出演しました

一般社団法人 コミュニティエデュ

代表理事 西尾 征 樹



このたびFM805に出演しまして、パーソナリティのたんたんさんのよどみない進行に気持ちよくお話をさせていただきました。

私どもの役割としては、住民の皆様の生き生きとした活動を支援し、今後の活動を見守るとともに、各地域に眠っている人材（財）を把握し、地域還元につなげていけるように努めていきたいと考えています。各地域には、萩原理事が中心となって、巡回しております。

また、生涯学習におきましては、市民カレッジを市とともに企画しました。

これからは、丹波市で様々な活動をされている人々を紹介し、今後も一生懸命頑張っている人たちを応援することは、市民活動や生涯学習では重要なことです。

私どもの考えを押し付けることなく、市民の皆様と共に、歩み、寄り添い、進んでいくことが求められています。

このような話をラジオでできることは、幸せなことです。ありがとうございました。

「葛野ブランド」の確立を

丹波市氷上町の葛野地区では、現在10年間の地域づくり計画の策定を進めています。計画策定にあたり、6月5日、かどのの郷で開かれた葛野報徳自治振興会の常会で、丹波市市民活動課から、地域づくり計画の策定について説明を受けました。すでに計画を策定した地域の事例紹介を通して、「葛野地域には良い所がたくさんある。進取の気風に満ちた地域でもある。未来志向の計画となるように」と助言をいただきました。

さらに、7月10日には福知山公立大学の杉岡秀紀准教授を招き、地域づくり計画について学ぶ講演会を開催する予定です。

このたびの自治振興会の活動計画には、「葛野ブランド確立（交流・関係人口創出）」を盛り込みました。葛野地区には、仏師の里として知られる達身寺をはじめ、多くの地域資源があります。清水坂トンネルの開通によって、多可町とのつながりも生まれました。しかし、これらの魅力を十分に活かし切れていないのが現状です。そこで今後は、

地域資源を活用した地域内周遊の活性化に取り組みます。具体的には、簡易な周遊ルートの作成や情報発信の強化を進め、地区外から多くの人に訪れていただける地域を目指します。また、かどの郷を周遊の拠点とし、「奥丹波ブランド」の



地域づくりの拠点「かどのの郷」



地域づくり計画策定に向けて研修する葛野報徳自治振興会の役員

卵で知られる卵かけごはんの提供や、地元野菜の販売にも力を入れ、地域全体の魅力向上につなげていきます。

また、次世代への投資として子育て支援や多世代交流を進めるため、「みんなの食堂」の開設についても検討しています。子どもから大人までが集える場をつくり、地域の見守り機能の強化と世代間交流の促進を図ります。

岸田隆博会長の話 葛野地区でも他地域と同様に児童数の減少や人口減少が大きな課題です。今回の地域づくり計画の策定を通じて、若者や女性を巻き込みながら、地域の担い手づくりを進めたいと考えています。一部のリーダーだけが担うのではなく、みんなが参加し、みんなが主人公になれる地域づくりを目指し、これからの10年の夢を地域全体で描いていきたいと思っています。

～弱いつながりで地域はもっと強くなる～

自治会長会総会での講演

「令和8年度 丹波市自治会長会総会」が、5月23日(土)にポップアップホールで開催され、議案審議の後、合同会社人・まち・住まい研究所代表社員の浅見雅之さんによる「福祉と防災のまちづくり～弱いつながりで、地域はもっと強くなる～」と題した講演がありました。

浅見さんは、人口減少が進む中で、行政に頼るようなやり方では地域をまとめ持続していくとは難しくなる。かといって、これまでのような全員参加の強いきずなを作ろうとすると若い人は離れていってしまう。弱いきずなを作るのが大切であると話し、参加者は今後の自治会活動、地域づくりのヒントを得る機会となりました。



浅見雅之さんの講演

丹波赤鬼会

地域活動に頑張っているグループとして黒井城主恵
右衛門直正にあやかる「丹波赤鬼会」を紹介します。



丹波赤鬼会は、2018年NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の制作発表（放映は2020～2021年）にあわせて誕生しました。大河ドラマ誘致に向けて、丹波篠山、福知山、亀岡を巻き込み、同年「大丹波手づくり甲冑交流会」を結成し、地域の活性化に取り組んできました。一方、黒井城跡環境美化活動を毎月第一土曜日に登山口を中心に草刈りや登山道のゴミ拾いなど地道な活動が続け

ています。本年は企業ボランティアと共同で登山口の整備に取り組んでいます。

今までの活動で最も評価が高いのは、新作品「直正」を黒井城跡本丸で上演したことです。13人の甲冑武者が茶会、そして、八上城、金山城と黒井城を結ぶ「のろし」の共演でした。これは一生の思い出となりました。

その後も、スペクタクル新作品「貂

ノ皮」、「福知山城」、「本能寺」など能楽師上田敦史さんの活動にも切組（斬り合いの場面）で参加したほか、「歴史文化体感フェスタ」にも携わってきました。

今後私たちにしかできないことを模索しながら、地道な活動を通じて地域に貢献できればと思っています。

来年、結成10周年を迎えるにあたり、大丹波の仲間と能楽師上田敦史さんのお力をいただきながら新たなチャレンジを考え、さらなる10年に向けて、一歩先を見据えた活動を続けていければと願っています。今年は、幸いにもこれからの担い手、若い方にも加わっていただきましたので、これを励みに新たな取り組みを目指してまいります。



亀岡光秀まつりを盛り上げるメンバーら



JR柏原駅でPR活動する会員

入会
申込

代表 吉住孝信さん
090-1442-8323

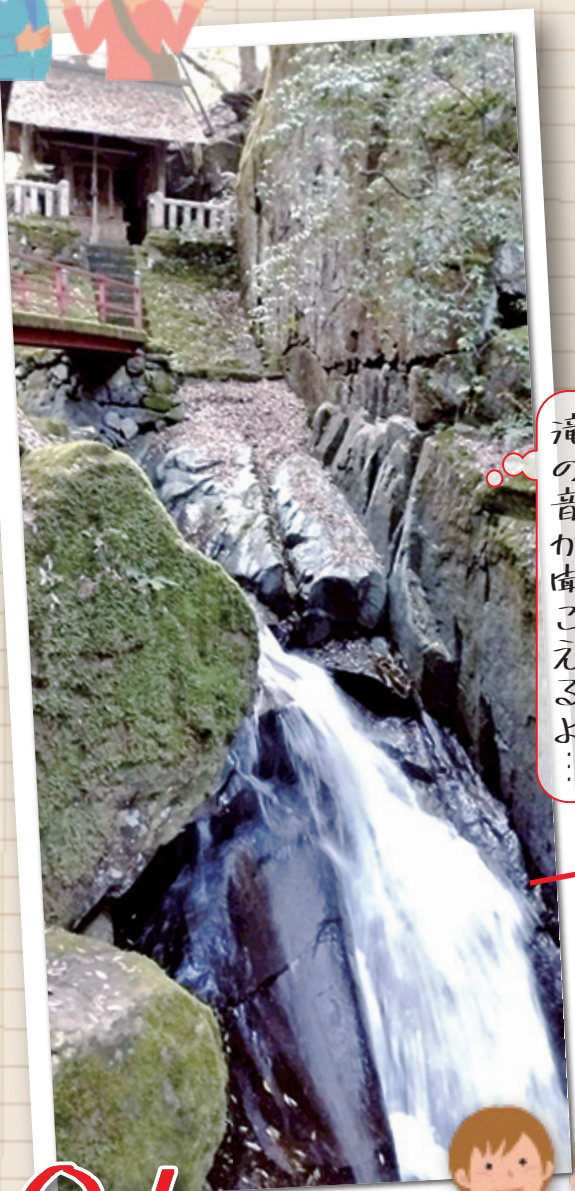


企業の皆様と一緒に黒井城跡の駐車場や登山道の整備をする会員

ここは
どこでしょう？

丹波市内のおすすめスポットを紹介します。

知っているようで知らない丹波市の
いいところを訪ねてみよう



滝の音が聞こえるよ…

Q1



答えは
どこかにあるよ～
探してね！

わたしに会える場所といえば…



Q2



2026(令和8)年度

たんば市民カレッジ 受講者募集

●主催●
市民プラザ・市民活動
支援センター

丹波が育んできたひとや丹波の持つ風土、そこで活動する団体などからテーマを挙げて、幅広い世代の方に向けた講座を開催いたします。多くの方が集い、学び、交わることで生涯学習のきっかけにいただければ幸いです。期間中は随時お申込み受付いたします。

回数	日程	テーマ	講師名
第2回	7月26日(日)	戦争体験を語る	語り手：宮永アサ子さん、片山幸子さん 司会：西尾征樹（市民プラザ統括）
第3回	8月2日(日)	笑って人生生きに～腹話術	全日本あすなろ腹話術協会組織部長(師範) 平山和志さん
第4回	8月30日(日)	笑う門には音楽あり ～笑いヨガと音楽療法の力を借りて～	兵庫県音楽療法士・笑いヨガティーチャー 梅谷浩子さん
第5回	9月13日(日)	多彩で楽しい丹波の狍犬	地域史研究家 山内順子さん
第6回	10月11日(日)	人にやさしい俳句	大阪教育大学講師(元教授) 岡田耕治さん
第7回	11月8日(日)	みんなで聞く丹波の民話	「ほ～げんたんば」（代表：野村文男さん）の皆様
第8回	12月6日(日)	今更聞けないスマホの基本活用術	国立大学附属中学校教員 古澤拓実さん
第9回	1月24日(日)	遺産相続を考えましょう	丹有法律事務所 弁護士 馬場民生さん
第10回	2月28日(日)	丹波びとの魅力 人から、モノから ー パネルディスカッション ー	パネリスト：山内順子さん、梅谷浩子さん、丸山健夫さん コーディネーター：萩原雅也（市民プラザ館長）

※各回13:30～15:30（予定）

定員：各講座100名（1回のみの参加も可能）※定員に達しましたらお断りする場合がございます
会場：市民プラザ（市民活動支援センター）、丹波市内住民センターほか
※受講者数により場所が変更となる場合がございます
受講料：4,000円／10回、500円／1回（高校生以下は無料）
申し込み：申込用紙と受講料を市民プラザ（10:00～17:30）までご持参ください。



お問い合わせ：丹波市 市民プラザ 丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2F
TEL.0795-82-8682／月曜定休・年末年始休み

※第1回講座「甲子園を作った丹波市生まれの三崎省三」は6月21日に終了しました。

丹波新聞は下記の店舗で
最新号を販売しております。

- 丹波市
●ファミリーマート柏原下小倉店
●ひかみ四季菜館（犬岡）
●道の駅 丹波おばあちゃんの里
●セブンイレブン丹波市辺南店
- 丹波篠山市
●ファミリーマート篠山丹南店
●岡本病院内 売店
●セブンイレブン篠山黒岡店

丹波新聞

TEL.0795-72-0530
FAX.0795-72-1956



丹波新聞

検索

ご購入は
こちらから

あとがき

多くの方々にご協力をいただき創刊号を発行することが出来たこと感謝申し上げます。

自治協議会様、地域グループの活動紹介「ここはどこでしょう？」は連載企画としていきたいと思っています。

皆様にとって親しみやすい紙面となるようにしていきたいと考えております。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

※広報「シビルたんば」に広告1枠
(6.5×5.5cm)5500円(税込)
を掲載していただける企業様、団体
様を募集しております。
詳細については電話0795・82・
8682午前10時～午後6時・月曜
定休)までお問い合わせ下さい。